

公益社団法人

日本海員掖済会

エキサイカイ



神戸掖済会病院

初期臨床研修について

【院長あいさつ】

神戸掖済会病院は神戸市内西側の垂水区に存在する民間の総合病院です。創立以来 100 年を超えている歴史のある病院で、創立時は海軍の水兵さんの健康管理を目的に作られ、その後は、一般の船員さんの診療も行っておりましたが、最近では地域の住民の方々を対象とする医療を行っており、地域医療支援病院に指定されています。小樽や長崎、宮城、名古屋、大阪、門司などの港町には日本海員掖済会に属する病院がありますので、研修中に訪問していただくこともプログラムに入れてありますのでお楽しみに。当院の研修ではコモンディーズから専門治療まで広範囲の疾患を経験していただけます。また、**柔軟性のあるプログラム**により、自分の将来の専門性を中心に見据えた研修も可能です。

ぜひ、当院で活気のある研修生活を送ってください。

院長 藤 久和

【病院紹介】

公益社団法人 日本海員^{えきさいかい}掖济会 神戸^{えきさいかい}掖济会病院

公益社団法人 日本海員^{えきさいかい}掖济会について

明治 13 年(1880 年)8 月、前島密氏(郵便制度の創設者)ら明治政府要人・海運界首脳等の約 50 名が発起人となり、船員の福利厚生を目的に設立されました。明治 31 年民法施行により 10 月 2 日付で認可を受け、法人登記番号第 1 号となりました。第二次大戦後は当会が運営していた事業が国の直轄事業や他の公益法人に引き継がれた為、主に医療事業に努めることとなりました。現在では船員のみならず、地域住民の皆様も対象とした医療・介護事業を中心に活動しています。現在、東京に本部を置き、8 病院・5 診療所・2 介護保険施設・1 看護学校を運営しています。

『掖济』とは

前島^{まえじまひそか}密氏が採用した言葉で、**腋^{わき}に手を添えて助ける・助け救う**という意味です。

神戸掖济会病院について

大正 3 年(1914 年)11 月に現在のハーバーランド付近に開設し、昭和 6 年(1931 年)には中央区下山手通に移転、平成 13 年(2001 年)3 月に現在の垂水区学が丘に移転いたしました。平成 26 年(2014 年)に創立 100 周年を迎えました。

現在は、内科・消化器内科・腎臓内科・糖尿病内科・呼吸器内科・循環器内科・脳神経内科・小児科・リウマチ科・外科・消化器外科・血管外科・乳腺外科・肛門外科・外科(化学療法)・形成外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・救急科・病理診断科・緩和ケア内科の 30 診療科を標榜する一般病床数 325 床(ICU8 床含む)の急性期病院として運営しております。令和 5 年度の入院患者数は年間約 73,000 名、外来患者数は年間約 14,000 名です。

救急体制として、神戸市第二次救急病院協議会の病院群輪番制に参加し、神戸市の救急医療の一端を担っています。年間の救急車搬入数約 5,000 台で救急患者数は約 10,000 名です。

※平成 27 年 1 月に神戸市の災害対応病院に指定されました。(救護所への備蓄医薬品や衛生資材等の提供、避難所・福祉避難所への医療提供などの役割を担う神戸市災害対応病院として、神戸市と協定を締結しました。)

※平成 27 年 12 月に地域医療支援病院として兵庫県より承認されました。

初期研修医の出身校

大阪大・神戸大・岡山大・徳島大・香川大・愛媛大・高知大・京都府大・大阪市大・広島大・鳥取大・富山大・山口大・大分大・琉球大・大阪医科薬科大・兵庫医科大・藤田医科大・川崎医科大・岩手医科大・産業医科大・金沢医大・福岡大・東邦大(過去含む)。

関連医局

- 大阪大 (循環器内科・整形外科)
- 神戸大 (外科・皮膚科・泌尿器科・放射線科)
- 兵庫医大 (消化器内科・循環器内科・眼科・耳鼻咽喉科)
- 関連医局なし(脳外科、麻酔科・救急科、他各科に数名医局派遣でない医師が在籍)

在籍医師数及び出身校

内科 4 名・循環器内科 7 名・外科 4 名・整形外科 6 名・脳神経外科 6 名・皮膚科 34・泌尿器科 1 名・眼科 3 名・放射線科 2 名・麻酔科 3 名・救急科 7 名・初期研修医 7 名、非常勤多数。

出身校:京都大・大阪大・神戸大・京都府大・大阪市大・滋賀医大・和歌山大・福井大・富山大・徳島大・香川大・広島大・鳥取大・山口大・大分大・宮崎大・鹿児島大・札幌医大・自治医大・日本医大・大阪医大・兵庫医大・川崎医大・昭和大・東海大・東邦大・岩手医大・北里大・藤田医大・金沢医大(過去在籍含む)。

初期研修後の進路(過去含む)

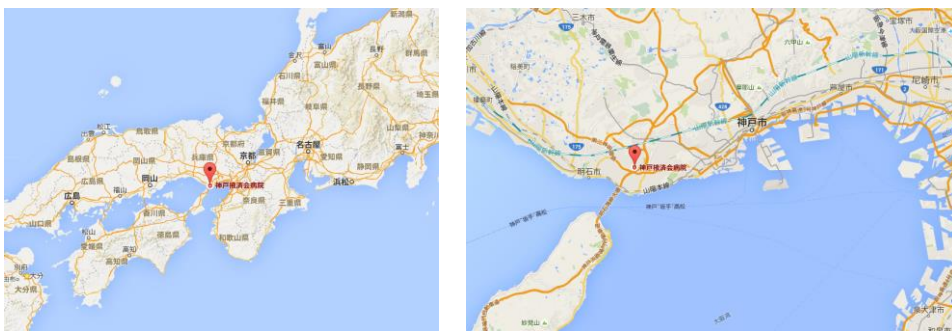
- 神戸掖済会病院(循環器内科・外科・脳神経外科・麻酔科・総合診療科)
- 神戸大学医学部附属病院(循環器内科・皮膚科・泌尿器科・乳腺外科・形成外科)
- 神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院(麻酔科)
- 兵庫県立災害医療センター(救急科)
- 兵庫県立加古川医療センター(救命救急センター)
- 大阪大学医学部附属病院(循環器内科・形成外科)
- 北野病院(麻酔科)
- 明石医療センター(麻酔科)
- 明石市立市民病院(内科)
- 西宮市立中央病院(外科)
- 川崎病院(内科)
- 市立豊中病院(整形外科)
- 小倉記念病院(泌尿器科)
- 産業医科大学病院(精神科)
- 長浜赤十字病院(小児科)
- 広島大学医学部附属病院(眼科)
- 富山県立中央病院(麻酔科)

* ()内は診療科

新専門医制度プログラム

- **日本内科学会専門医研修基幹病院、連携施設**(基幹病院:兵庫医科大学病院・近畿中央病院・関西労災病院・川崎病院)
- **日本整形外科学会専門医研修基幹病院、連携施設**(基幹病院:大阪大学医学部附属病院)
- **日本専門医機構 総合診療専門医研修基幹病院**
- **日本脳神経外科学会専門医研修連携病院**(基幹病院:神戸市立医療センター中央市民病院)
- **日本皮膚科学会専門医研修連携病院**(基幹病院:神戸大学医学部附属病院)
- **日本眼科学会専門医研修連携施設**(基幹病院:兵庫医科大学病院)

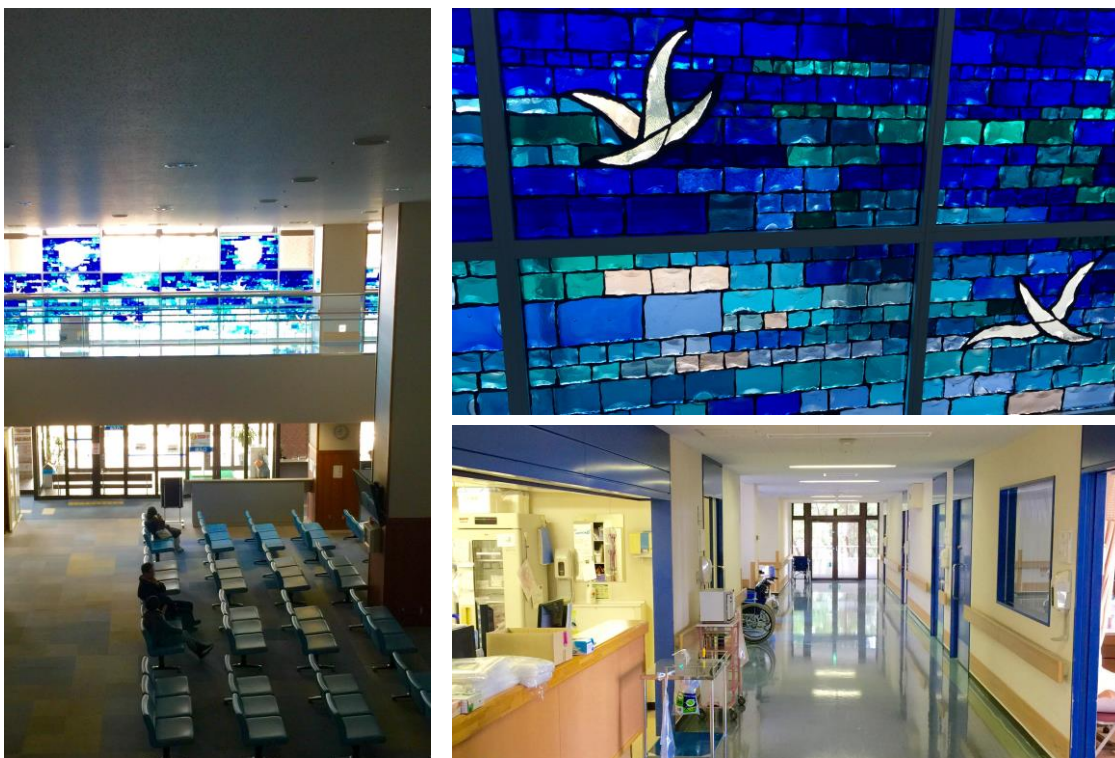
場所は兵庫県神戸市の西側、明石海峡大橋の近くです。



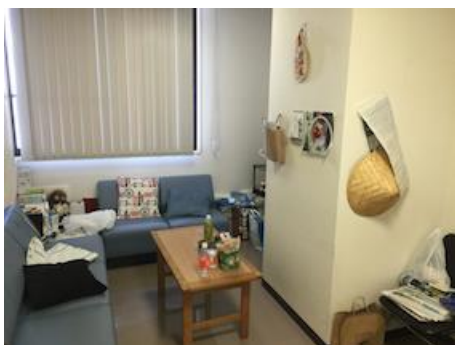
病院外観。威風堂々、立派な建物です。



築 18 年、内部もまだまだ綺麗です。



研修医室はいつ見ても片付いてませんね。医局談話室のテレビでは WOWOW も見れます。大きなスポーツイベントがあるといつも混雑します。かつて WBC でイチローが決勝打を放った試合では、「ちょっと外来が長引いてるから、オペ出し遅らせといて！」と手術室に電話した●科医がいたとかいないとか。当直室は可もなく不可もなしという感じです。



病院の7階からは明石海峡大橋の主塔と淡路島、そして瀬戸内海がちょっとだけ見えます。



【研修プログラム紹介】

プログラムの名称

神戸掖済会病院初期臨床研修プログラム

プログラムの特色

2年間で総合的臨床能力を有する医師を育成することを目標とする。一年次は必修科目である内科6ヶ月、救急3ヶ月、一般外科 1 ヶ月、残りを外科系(外科・整形外科・脳神経外科)から選択。二年次には地域医療研修、産婦人科、小児科、精神科研修を1ヵ月ずつ、名古屋掖済会病院救命救急センター1 ヶ月を充当し、残りの 7 ヶ月は研修医の希望する選択科目(内科・循環器内科・外科・脳神経外科・整形外科・産婦人科・皮膚科・小児科・眼科・泌尿器科・麻酔科・精神科・地域保健)の研修に充当する。これにより、基礎的な臨床能力の養成に加えて研修医の希望する専攻科目の修練も可能とする。

※精神科は湊川病院、産婦人科は西神戸医療センター、小児科は神戸医療センター、地域医療は星島整形外科・リハビリテーションにての院外研修です。

臨床研修委員長 ・ プログラム責任者

片山 智博(神戸掖済会病院 救急科・麻酔科)

臨床研修を行う病院および臨床研修施設

神戸掖済会病院

所在地:	神戸市垂水区学が丘 1-21-1
管理者:	院長 藤 久和
開設者:	公益社団法人 日本海員掖済会 会長 佐藤 尚之
病床数:	一般病床 325 床
プログラム:	内科・救急の必修科目、外科・小児科・麻酔科の選択必修科目および地域医療・精神科以外の科目の研修を行い、診断能力・治療計画立案など医師としての基礎的技能の習得を行う。また研修医の希望する選択科目の専攻研修も行う。

医療法人 尚生会 湊川病院(精神科)

所在地:	神戸市兵庫区湊川町 3-13-20
科目:	精神科・神経科
病床数:	精神科病床 300 床
プログラム:	機能性精神疾患・脳器質性精神疾患・症候性精神疾患などの状態を理解して診断し、実際に患者を治療する。特に精神科救急の入院患者を受け持つ場合、精神保健法にのっとり適切に対処する能力を身につける。

名古屋掖済会病院 救命救急センター(救急医療)

所在地： 名古屋市 中川区 松年町 4-66
研修実施責任者： 救命救急センター長 北川 喜己
プログラム： 救命救急センターにおいて、1次から3次の救急患者の初期治療における適切な初期対応能力の獲得を目指す。

星島整形外科・リハビリテーション(地域医療)

所在地： 神戸市 垂水区 天ノ下 5-3
研修実施責任者： 院長 星島 一夫
プログラム： 診療所において、地域医療の現場を経験することにより地域医療の役割・知識を習得する。

地方独立行政法人 神戸市民病院機構 西神戸医療センター(産婦人科)

所在地： 神戸市 西区 糀台 5-7-1
研修実施責任者： 産婦人科部長 佐原 由美子
プログラム： 神戸西地域の中核病院で産婦人科医療の知識を学ぶ。

国立病院機構 神戸医療センター(小児科)

所在地： 神戸市 須磨区 西落合 3-1-1
研修実施責任者： 小児科部長 山岡 利佳
プログラム： 神戸市須磨区の中核病院で小児科医療の知識を学ぶ。

研修医の指導体制

各診療科においては研修医 1 名に対し、複数の指導医がチームを作りチーム診療体制で患者の診断・治療に当たる。研修医一人当たり5名～10名の患者を受け持ち診療に当たるとともに種々のカンファレンスに参加して実践的な臨床指導を受ける。

救急医療では診療時間外の当直業務に参加して上級医とともに診療にあたり、問診技術・診断過程・治療技術の向上を図る。また、診療時間内にも外来救急患者や院内発症の救急患者の診療・治療に参加する。

研修管理委員会

研修管理委員会は当研修プログラムに基づく研修医の受け入れから、研修進行状況のチェック、研修プログラムの修正などの管理・運営をおこなうものとする。また研修の終了にあたっては各研修医の出席状況、臨床到達度、経験症例の解析など適切な臨床研修を経験しえたか否かを判定する。

研修スケジュール例①

ある研修医の2年間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	麻酔科 救急科	麻酔科 救急科	麻酔科 救急科	内科	内科	内科	外科	外科系	外科系	循環器	循環器	循環器
2年次	脳外科	小児科	救急科	精神科	産婦人科	選択科目	選択科目	選択科目	選択科目	選択科目	選択科目	選択科目

研修スケジュール例②

ある研修医の1日

8時30分	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時
病棟回診	検査	検査	検査	休憩	手術	手術	手術	病棟業務	カンファ レンス	帰宅

研修医の処遇

職 名：研修医(嘱託職員)

給 与：1年次 ¥320,000- /月 ・2年次 ¥ 370,000- /月(平成29年度実績)

賞 与：1年次 ¥427,300- /年 ・2年次 ¥ 925,000- /年(平成29年度実績)

想定年収：1年次 約¥5,000,000 /年 ・2年次 ¥7,200,000- /年

※(当直料・住宅手当等)含む

当 直：上限6回まで(1年次 ¥10,000- /回・2年次 ¥20,000- /回)

宿 舎：なし(家賃補助上限¥27,000あり)

社会保険：加入(健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険)

医療賠償保険：病院で全体加入しているが、個人でも加入が望ましい。

学会出席等：当院規定により支給あり(2年次1回)

勤務時間：月～金曜日 8:30 ～ 17:15

休 暇：土・日・祝日・夏季休暇・年末年始(12/29～1/3)・有給休暇(法定通り)

2025 年度 初期臨床研修医募集要項

2024 年度医師臨床研修マッチングシステムに参加し、2025 年 4 月 1 日採用の初期研修医を募集します。

応募資格

2025 年 3 月に大学医学部卒業見込で第 119 回医師国家試験を受験し、医師免許取得見込の方

募集人員

3 名

応募手続

事前提出書類

- 履歴書(市販の JIS 規格及び大学発行のもの・写真貼付)
- 医学部卒業見込証明書
- 成績証明書
- 健康診断書(大学で実施したものの証明で可)

上記書類を 2024 年 7 月 31 日までに下記当院総務課まで郵送又は持参。

〒655-0004

神戸市垂水区学が丘 1-21-1 神戸掖済会病院 総務課 医師臨床研修担当 まで

選考方法

方法：面接試験

日時：2024 年 8 月

場所：神戸掖済会病院

※ 日程が合わない場合は、相談に応じます。

病院見学について

病院見学は、平日随時行っております。

都合のよい日を事前に当院総務課までご連絡下さい。

電話：078-781-7811(代表)

メールアドレス：soumu3@kobe-ekisaikai.or.jp

※ 病院見学では、当院の初期研修医とともに行動し、1 日の研修医生活・内容等を見学して頂いております。

【診療科紹介】

【循環器内科】

《特徴》

当院は神戸市垂水区の中核病院として機能しており、循環器内科は 40 床、ICU6 床(外科や脳神経外科などと共同使用)です。中核病院であるため、急性冠症候群や急性心不全など循環器救急疾患が集まります。また 1 次、2 次救急が中心であり Common Diseaseと言われるような疾患(症候)が多い事が特徴です。更に虚血性心疾患や不整脈に対するカテーテル治療、心臓リハビリテーションにも力を入れており、急性期はもちろん慢性期におよぶ管理も行っています。最近では心臓MRI や心臓核医学検査に新たな機器が導入され、循環器疾患に対してより詳細な病態把握に努めています。

《スタッフ紹介》

藤 久和	院長	昭和 62 年卒
伊達 基郎	部長	平成 5 年卒
半田 充輝	部長	平成 12 年卒
松本 実佳	医長	平成 13 年卒
小谷 健	医長	平成 17 年卒
三村 麻郎	医長	平成 18 年卒
中ノ瀬 晃一	医長	平成 21 年卒(平成 21 年度研修医)
山崎 玲子	医員	平成 25 年卒

《指導医からのメッセージ》

医学生の皆さんへ。これまでの大学の病院実習を思い出してください。授業で習った知識だけでは臨床はできません。また大学病院やハイボリュームセンターに勤めたからといって必ずしも色々な手技や知識がつくわけではありません。日々リアルワールドで臨床に追われている病院にこそ、現実的に即した臨床上の手技や知識の必要性が生まれ、学ぶべきことが次々と発生してきます。当院のような地域に根差した病院は、医師の数も充実しているわけではありませんが、その分各々の医師が果たす役割を発揮しなければまわっていかないのが現実です。その中で考え、磨かれてこそ手技や知識が自分のものとなっていきます。循環器内科では、循環器疾患にこだわらず、我々の同朋として活躍することができる、**戦力として一人前の医師を早期に育て上げる**ことに重点を置き、そのことが研修医の先生にとっても、将来の私たちにとっても意義のある事だと考えています。(藤久和)

《研修方針、研修内容》

当科ではなるべく研修医の希望に沿い、重点の置きたい内容(侵襲的な手技や心エコー、病態生理など)を中心に研修できるように臨機応変に対応しています。その中でも最低限身に付けてもらいたい項目は非侵襲的な検査の解釈です。特に心電図や心エコー所見に対しては適宜講義を交えながら、結果の解釈について理解を深めてもらっています。また救急対応や担当患者の治療方針については、指導医の下、主治医として積極的に関わってもらい、実践力、臨床的なセンスが身に付くよう、症候や病態生理から理論的に考察するように指導しています。緊急カテーテルや救急対応があり忙しいこともありますが、実りある充実した期間を過ごせると思います。

良く学び、



よく遊びましょう！！ (ICU スタッフとの BBQ、循環器、脳外、外科、麻酔科集結！)

日本内科学会総合内科専門医は兵庫医科大学病院・関西労災病院・近畿中央病院のプログラム関連施設ですので、取得可能です。

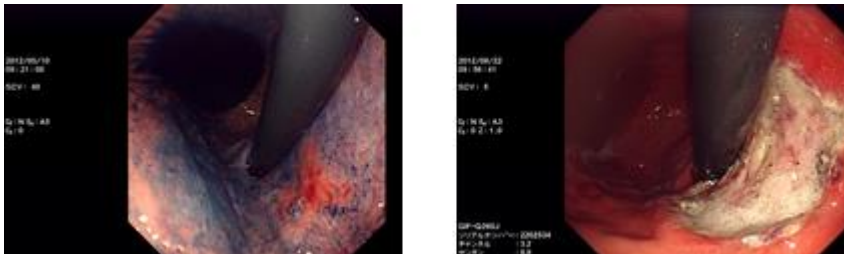
【内科】

《特徴》

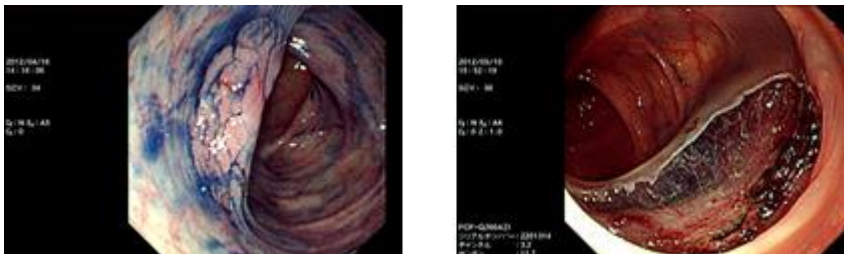
消化器領域では食道、胃、大腸癌の早期発見と内視鏡治療を主として行っております。消化器癌は早期に発見し治療すれば治る可能性の高い病気で早期発見に威力を発揮するのは内視鏡です。早期に発見された癌は開腹することなく内視鏡的に切除することが可能な場合があります。

またヘリコバクターピロリ菌は、胃十二指腸潰瘍の原因の一つとして重要な役割を果たすことが明らかにされており、更には胃癌発生への関与も推定されています。感染の有無は、内視鏡で胃の組織を採取しピロリ菌を顕微鏡で探す方法や菌の培養、尿素呼気試験で診断します。内視鏡検査においては出来るだけ苦痛を取り除くために経鼻内視鏡や鎮静剤を用いたセデーションもできるだけ行うようにしております。

胃 ESD の一例



大腸 ESD の一例



卒後臨床研修に関して、病院全体でよりよい研修ができるよう努力しております。初期研修 2 年間で医療全体の基礎を固めるとともに、救急医療の実践をつかめるように指導します。後期研修では消化器疾患全般について消化器・肝臓、膵胆道系の各領域にわたり、上級医の指導のもと豊富な症例を経験することが可能です。内視鏡治療については、上部消化管内視鏡は初期研修で習得し、後期研修以降は下部消化管内視鏡検査・消化管止血術・大腸ポリープ切除術・内視鏡的膵胆管造影(ERCP)を基本とした乳頭切開術(EST)・総胆管結石除去術・胆道ドレナージ術まで習得してもらうことを目標としています。

当院は他科との垣根も低く、スタッフ間のチームワークが良好であり、一致団結して検査・治療に望むのも当科の特徴であり、誠意と熱意のある消化器内科志望の医師を広く求めています。

《スタッフ紹介》

名誉院長 1 名・部長代理 2 名

島津 敬	名誉院長	昭和 49 年卒	(総合内科・循環器内科)
山田 則夫	部長代理	平成 8 年卒	(脳神経内科)
深水 英昭	部長代理	平成 14 年卒	(糖尿病内科・総合内科)
小川 啓子	医長		(人工透析内科)

ぜひ、当院にお越し下さい！

うまくいかない時でも、個性豊かなスタッフが支えます。

皆さんを心から待っています！！

日本内科学会総合内科専門医は兵庫医科大学病院・関西労災病院・近畿中央病院プログラムの関連施設ですので、取得可能です。

【整形外科】

《特徴》

当院では関節外科(膝・股関節、肩関節等)・脊椎外科・リウマチ・外傷など、整形外科の主要な疾患を多数扱っております。特に専門性の高い腫瘍や小児整形疾患などは、大阪大学医学部整形外科や近隣の専門病院と連携を取っております。

年間手術件数は約 700 例で、人工関節・関節鏡手術・脊椎外科・骨折などの手術を行っております。一般的にイメージされる整形外科疾患の手術に対応しており、**GENERAL 整形外科医になるには最適**な病院です。また日本整形外科学会、日本リウマチ学会の研修指定病院ですので、今後の専門医取得を見据えた研修も可能です。将来的に専門性を高めるためにも、この一般整形外科の知識がとても役に立つと思われま

日本整形外科学会専門医は大阪大学医学部附属病院専門研修プログラムの関連施設ですので、取得可能です。

《スタッフ紹介》

藤本 眞弘	昭和 56 年卒	日本整形外科学会専門医	日本リウマチ学会専門医
		日本リハビリテーション学会臨床認定医	
木澤 卓嗣	平成 12 年卒	日本整形外科学会専門医	日本リウマチ学会専門医

		日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
		日本体育協会スポーツドクター
小橋 潤己	平成 12 年卒	日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会専門医
		日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
洪 洋熹	平成 18 年卒	日本整形外科学会専門医 日本体育協会スポーツドクター
渡邊 真生	平成 20 年卒	日本整形外科学会専門医
大野 純生	令和 3 年卒	
吉田 晃己	令和 4 年卒	

《研修内容》

1年目は希望により1~2か月間研修してもらいます。2年目は整形外科研修の希望があれば、期間は自由ですが最大9ヶ月間、可能な限り多くの手術や診療に携わってもらいます。

外来診療では指導医の診察・治療・患者さんへの説明などを見学してもらいます。また、創処置、関節内注射、ギプス固定などの手技を習得します。救急患者に対しては指導医と一緒に診察して骨折・脱臼の整復固定などの初期治療を研修し、緊急手術や入院の必要性を判断する能力を養います。手術には1年目は助手として参加して、抜釘や創縫合などの基本的な手技を体験します。2年目は指導医の元で、骨折などの多くの手術を術者として経験してもらいます。毎週火曜日には回診、カンファレンスに参加して症例の提示・治療方針の決定を、金曜日には脊髄造影検査・神経根ブロック等の検査に関わってもらいます。

将来、整形外科を目指される先生で、希望があれば初期研修2年目に後期研修医と同等の研修を受けて頂きます(習熟度に応じて外来診療、病棟主治医、手術執刀医など)。初期研修終了後、継続して後期研修医として勤務して頂くことも大歓迎です。大阪大学整形外科に入局してもしなくても、後期研修は可能です。

我が国は超高齢化社会に突入し、整形外科疾患を抱える患者さんは益々増加しています。また、NHKの総合診療医ドクターGで扱われる症例には、手足のしびれ、脱力、腰背部痛を訴える患者さんが少なくなく、整形外科疾患・リウマチ疾患が鑑別診断として上がることも度々あります。長い医師生活で整形外科研修が役に立つ時がきっと来るでしょう。



【脳神経外科】

【特徴】

第1の特徴：脳神経外科で扱う救急疾患のほぼすべてが経験でき、かつ治療できることです。

- ・ 神戸市の中でも脳疾患の救急車受け入れ数は上位ランクです。
- ・ 開頭手術はもちろん血栓回収術やコイル塞栓術など血管内治療も行っています。
- ・ 少人数なので早い段階から指導できます。多くの症例を経験して早く1人前になりたい先生にはうってつけです。

第2の特徴：Work-life balance を重視しています。

- ・ 当直明けは朝から帰宅できます。
- ・ 当直、外来、救急当番の数や受け持ち患者数は上下に関係なくほぼ等分です。
- ・ 有給休暇を有効に使ってリフレッシュしています。

第3の特徴：特定の大学に所属せずに専門医の取得ならびに当院のスタッフになれます。

- ・ 出身大学は問いません。特定の大学には属していません。
- ・ 専門医取得のための研修プログラムは神戸市立医療センター中央市民病院を基幹病院とするプログラムに属しています。
- ・ 当院で後期研修を行いながら専門医を目指す方は、神戸市立医療センター中央市民病院の脳神経外科で半年間研修できます。

またスタッフは脳神経外科専門医のほか脳神経血管内治療専門医、脊椎脊髄認定医、神経内視鏡認定医などサブスペシャリティを有しており、幅広く学ぶことができます。

【スタッフより】

中嶋千也(平成6年卒)：メリハリをつけて楽しく仕事をしましょう！

富永貴志(平成10年卒)：安心してください。一から指導します。

林 真人(平成14年卒)：

駒井崇紀(平成23年卒)：新しい脳外科がここにはあります！是非一緒に。(平成23年度研修医)

安田貴哉(平成24年卒)

樋上真之(平成30年卒)：(平成30年度研修医)

山本健太(平成31年卒)：(平成31年度研修医)

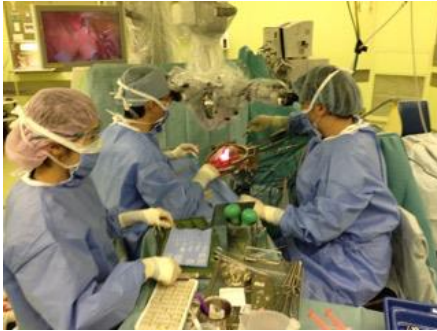
【研修内容など】

- ・ 1年目では1～2ヶ月間、2年目では最大11ヶ月研修可能です。
- ・ 毎朝症例検討会を、週1回手術カンファレンスとジャーナルクラブを行っています。
- ・ 学会発表や論文作成などの指導も行っています。

【昨年ローテートした初期研修医より】

・研修医が習得すべき CV カテーテルなどの基本手技から脳血管造影検査などの専門手技まで数多く経験でき、指導医の先生から実践形式で指導してもらえるため習得までの時間が短いですよ！

(S 医師)



開頭手術



ある研修医の血管吻合練習



血管内手術

日本脳神経外科学会専門医は神戸市立医療センター中央市民病院専門研修プログラムの関連施設ですので、取得可能です。

【麻酔科】

《特徴》

当院の年間手術件数は約 2,000 件で、そのうち 1,000 件強が麻酔科管理です。外科・整形外科・脳神経外科の手術が多く、そのほとんどが全身麻酔です。朝から晩までかかるような長時間手術は少なく、2～3 時間で終わる手術が日勤帯に数多くあるのが当院の特徴です。また、昼間に救急外来で 1 日数～10 数件、救急患者の診察にあたります。診断がつき次第適切な診療科に治療を引き継ぎますが、どの科が診るべきか定かでない、いわゆる狭間疾患はそのまま救急科で入院主治医となります。

麻酔科 馬屋原 拓 : 平成 11 年卒 麻酔科標榜医・専門医・指導医
福岡 良祐 : 平成 15 年卒 麻酔科標榜医・専門医・指導医
平井 優哉 : 平成 25 年卒 麻酔科標榜医・専門医
内橋 正雄 : 平成 29 年卒 麻酔科標榜医・専門医

【救急科・総合診療科】

馬屋原 拓：平成 11 年卒 救急専門医、総合診療専門医、麻酔科専門医

片山 智博：平成 20 年卒 救急専門医、総合診療専門医、外科専門医(平成 20 年度研修医)

新井 啓之：平成 31 年卒 (平成 31 年度研修医)

松浦 一義：平成 31 年卒 (平成 31 年度研修医)

永田 謙太郎：令和 2 年卒

丸尾 英作：令和 3 年卒(令和 3 年度研修医)

東 佑樹：令和 4 年卒



《研修内容》

手術室では、マスク換気、気管挿管、末梢静脈路確保、中心静脈カテーテル挿入(おもに超音波ガイド下)、動脈ライン挿入、腰椎穿刺など、**1 年目で一通りの手技を研修、習得**できます。初期研修医には(嫌でなければ)できるだけ手技の多い症例を担当してもらいます。また、救急患者が来院したら救急外来に赴き、指導医とともに診察にあたります。

2 年目の再ローテートも大歓迎です。再ローテートでは本人の希望により手術麻酔だけ、もしくは救急業務だけの研修も OK です。手術麻酔では希望があれば硬膜外麻酔、末梢神経ブロックなども含め、すべての麻酔手技を納得のいくまで極めてもらいます。救急業務では、1 年目と違い指導医とともに入院主治医として患者を受けもちます。

麻酔科・救急科ローテート中は、平日昼間はやや忙しいですが、夜間休日の呼び出しは(強い希望がない限り)ありません。麻酔科・救急科ではオン・オフのメリハリのきいた研修ができます。

手術室と救急外来で皆さんを待っています！

【皮膚科】

《特徴》

皮膚は内外の影響を受けて鋭敏に反応し様々な病変を呈します。いろいろな疾患や治療に関係し皮膚症状が出ることもあるため各診療科(地域の開業医先生(内科外科皮膚科・・)や皮膚科のない病院の先生方)より多くのご相談をいただき、正確な診断に基づく治療の提供ができるよう心がけています。

《スタッフ紹介》

後藤 典子 (平成 17 年卒)
三木 康子 (平成 25 年卒) **(平成 25 年度研修医)**
有吉 綾香 (平成 26 年卒)
川村 真実 (平成 31 年卒)
非常勤医師:加茂田 麻衣子

《研修内容》

皮膚科を将来選択する人だけのためではなく、**他の科で仕事をする際に当院の皮膚科で研修を行ったことが少しでも役立つような研修内容**にしたいと考えています。研修期間に応じて以下の目標設定で研修医の先生とともに勉強を行っています。

皮膚科研修目標(1 か月)

- 1) 病態を分類しよう。
- 2) 真菌顕鏡を覚えよう。
- 3) ステロイドのランクを覚えよう。
- 4) ステロイドの副作用を覚えよう。
- 5) 手術・皮膚生検(単純切除)の方法および部位による違いなどを覚えよう。
- 6) 簡単な皮膚病理を覚えよう。
- 7) 学会や研究会に出てみよう。

皮膚科研修目標(2 か月)

上記+

- 8) 簡単な皮膚病名を覚えよう。
- 9) 皮膚エコーをしてみよう。
- 10) 英語論文を読んでみよう。

皮膚科研修(3 か月目)

上記+

- 11) 診断を行ってみよう。
- 12) 爪処置、光線療法などを行ってみよう。
- 13) 症例があれば学会(研究会での発表)をしてみよう。

日本皮膚科学会専門医は神戸大学医学部附属病院専門研修プログラムの関連施設ですので、取得可能です。

【泌尿器科】

《特徴》

現在、泌尿器科領域の治療は、前立腺癌に対するロボット支援下手術に代表されるように鏡視下手術が増加し、開放手術が減少しています。そのため、マンパワー、手術器具、設備の充実している基幹病院のセンター化が起こり、そこへの紹介が多くなっています。当院では泌尿器癌の早期診断、排尿障害、尿路感染症などに対する診断治療が主となっています。

《スタッフ紹介》

泌尿器科部長 宮崎 治郎 昭和 59 年卒

《研修内容》

初期研修 2 年目に希望される研修医の先生が当科をローテートすることになります。泌尿科患者の診察、検査(エコー・膀胱鏡検査)。前立腺癌、腎臓癌に対するロボット支援下手術、腎移植術など当院では経験できない手術に関しては神戸大学医学部附属病院で見学して頂きます。

過去、**当院から 2 名の泌尿器科医が誕生**しています(現在、福岡大学病院、神戸大学医学部附属病院勤務)。

【眼科】

《特徴》

眼科は眼球と眼窩付属器を取り扱う特殊な診療科ですが、その中でも眼瞼眼形成、眼窩部や涙道疾患、斜視弱視診療、角膜疾患、白内障屈折矯正、緑内障、ブドウ膜関連疾患、網膜硝子体疾患、神経眼科と専門性が細分化されています。多くの専門分野で外科的治療を必要としますが、ブドウ膜関連疾患並びに神経眼科では内科・脳外科など全身との関連性が強いことも特色で、内科的治療が必要となります。

当院では主に眼科全般の診療を行っており一日の外来患者数は延べ 100 人、午後は術前検査や視野検査など予約検査を行っています。年間手術件数は 800 件を超え特に多くの白内障手術症例を執刀しており、また網膜硝子体手術にも力を入れています。網膜剥離などの対応可能な緊急疾患は当日の緊急手術を行います。その他に症例数が多い眼瞼手術、緑内障手術も当院で行っています。斜視手術、眼窩部手術、角膜手術は適宜大学病院や近隣施設に紹介しています。

《研修内容》

細隙灯顕微鏡の使用法、眼圧の測定、各種検査機器の使用法などの実践的な指導を行います。外来診療を担当出来るようになるまでにはそれなりの時間を要しますが、入院白内障患者の術前術後の診察からスタートし、網膜硝子体疾患の術後診察、緑内障の術後診察や眼圧管理についての指導を行って行きます。研修の進行具合によりますが、初期研修では霰粒腫や翼状片などの外眼部手術や白内障手術の指導も行います。また、豚眼を用いた白内障手術研修を定期的に行っています。

《スタッフ紹介》

周 允元 平成 14 年卒 (眼科一般、網膜硝子体、白内障)
松浦 信太郎 平成 29 年卒
楠 直弥 令和 2 年卒

《スタッフの一言》

全身を診る機会に乏しい眼科はともすれば敬遠されがちな診療科かもしれませんがライフワークバランスに優れ、女性でも働きやすい診療科です。勿論外科診療を志す男性にもお勧めで、顕微鏡下で行う手術の恩恵もあり老眼に煩わされることなく長期に渡って執刀が可能です。

当院眼科は医師、コメディカルとの連携が良く検査スタッフの疾患に対する理解も深いため分からない事も気軽に相談できます。緊急時のスタッフの対応も迅速で助け合いの精神にも溢れています。**仕事もプライベートも充実した日々を送りたい方、奥深い眼科の世界で是非ぜひお待ちしております。**

日本眼科学会専門医は兵庫医科大学病院病院専門研修プログラムの関連施設ですので、取得可能です。

【形成外科・血管外科】

《特徴》

2017年4月より形成外科が開設されました。以前より診療を行っていた血管外科も併せて再開しています。形成外科としては、マイクロサージェリーを用いた再建(乳房再建、足趾移植など)、切断指再接着を行っているのが特徴です。その他、眼瞼下垂、腫瘍切除など、先天性疾患(口唇口蓋裂顎裂、小耳症など)と美容以外は全般に渡って診療しています。また2017年9月より施設認定を受け、エキスパンダー/インプラントによる乳房再建も行っています。

血管外科に関しては下肢静脈瘤、内シャント手術、閉塞性動脈硬化症などの手術治療を行っています。特徴としては、下肢静脈瘤はレーザー治療を行っていること、閉塞性動脈硬化症は下腿に対する distal bypass にも対応していることが挙げられます。

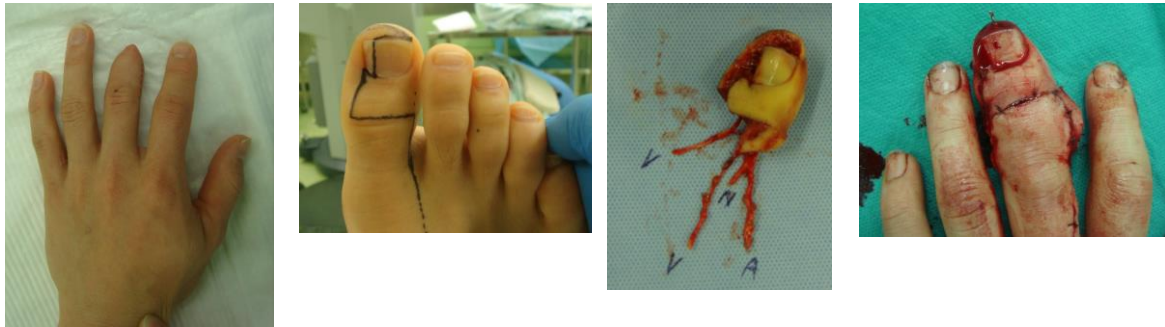
《スタッフ紹介》

非常勤医師	渋谷 卓	昭和 61 年卒	大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科 特任教授
非常勤医師	清水 和輝	平成 12 年卒	外科専門医、形成外科専門医

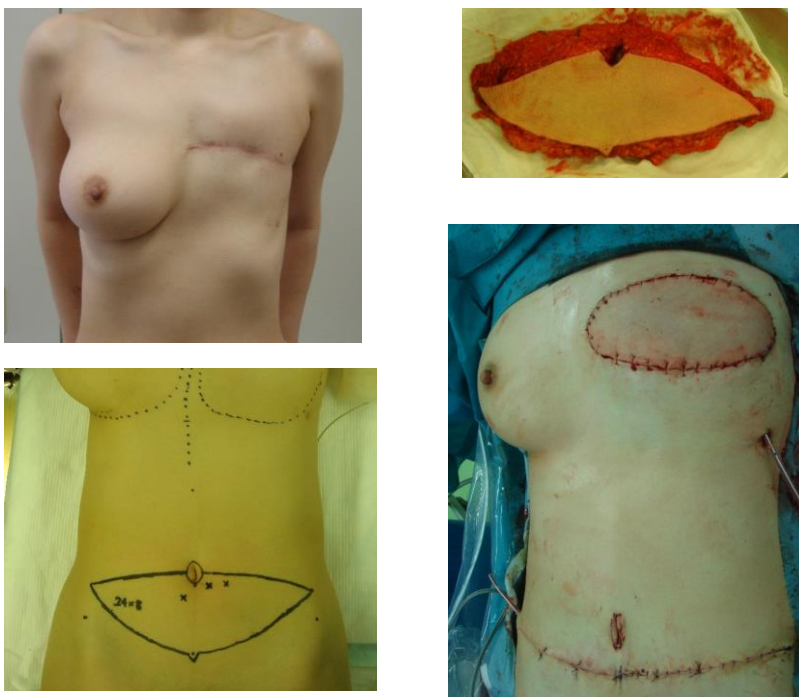
《研修内容》

局所麻酔、縫合、デブリードマンなど外科系全てに必要な初歩的技術が身につきます。内科志望だとしても縫合の初歩的技術は医師を続ける限りは必要ですので、早いうちにイロハを身に着けることは有用です。また常勤医 1 名ですので、マイクロ手術も自ずと第 1 助手となります。当院は切断指を受け入れていますので、マイクロを覗く機会は短期間の研修であっても比較的多いと思います。肉眼での視野とはまた違った世界がありますので有意義な経験が得られることと思います。

左中指欠損に対して、足趾移植術で再建を行いました



左乳癌術後に対して、遊離穿通枝皮弁で乳房再建を行いました。



【放射線科】

《特徴》

放射線科では、院内臨床各科と地域の開業医さんからオーダーされる X 線検査に対する診断業務と IVR 検査をおこなっています。地域の開業医さんからは、年間 1,000 件の検査依頼があります。当院には、MRI(1.5T) 2 台、CT2 台(1 台は救急室に設置)、ガンマカメラ、血管撮影装置 2 台、X 線テレビ、骨塩定量装置、一般撮影投資等の最新機器が揃っています。

手取り足取りの指導はできませんが、各科配属時に患者さんのレントゲン写真についての疑問は **どしどし質問に来てください**。また、年に数回、基礎的な講義を行う予定です。

《スタッフ紹介》

足立 秀治 : 放射線診断専門医

後藤 一 : 放射線診断専門医

非常勤医師 3 名 : 全員が放射線診断専門医です。